
雨

宮森すず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨

【コード】

N0976H

【作者名】

宮森すず

【あらすじ】

シヨートシヨート。気だるい雨の午後を過ごす「わたし」と、ちよっと変わった友人との会話。

彼は雨がキレイだという。ねむくなるからだそうだ。

わたしは、雨もねむたそうな彼も悪くないと思う。世の中には、もつと他に敵意をむけるべき対象がある。

降り始めの濡れたアスファルトの匂いや生ぬるく湿った風は、わたしの中の原始的な部分をゆすり起こし、ひっぱたいて目覚めさせてくれる。ほとんど点ではなく線に聴こえる雨音は、強弱の合間に気まぐれな雷鳴をあしらいつつ、あくまでも物憂げに耳を打つ。

窓や車や人や教会や取り入れそこねた洗濯物がびしょぬれになって、鈍色にひかって、忘れ去られてゆく様はある種哲学的でさえある。そこには勤勉があり怠惰があり叡智があり無知があり教訓があり思い込みがあり高尚な言い分があり、安っぽいプライドがある。

「人間の尊厳は、」と、彼は言った。

わたしは彼がねむっているとはかり思っていたので、うつすらと居心地の悪さを感じながら彼を振り返った。彼はぼんやりと水滴のついた窓をながめていた。稲光がときおり横顔に陰影をきざんだ。心ここにあらず、といった風情は彼が何かくだらないことを思いついたときに見せる表情だ。

一部の物好きには物憂げだ、退廃的だと悪口だか賞賛かわからない修辞を贈られる彼特有の雰囲気は、彼を実際以上に思慮深く、大人びた人格にみせてしまう。演出過多だ、人格偽証だ、お前は白紙の辞書だ、しかも無駄にぶ厚い、表紙だけは真面目くさって美しいものだからさらに始末に困る。

「人間の尊厳は、その個人が損なわれていないと思えば損なわれることなんてないんだ。たとえ彼が衆目の中でひとり裸であったとし

ても。それで彼が恥じ入ることがなければ、何も彼の矜持を傷つけることがなければ、彼でない我々が一人合点でおせっかいを焼いてやる必要はない。むしろそのおせっかいこそが彼の人間としての尊厳を台無しにしてしまうだろうさ」

ねむっていればよいものを、とわたしは思った。

「彼、とやらの汚いイチモツを見せられている『我々』、その他大勢の尊厳は誰が保障してくれるんだ」

「服がなんだ、裸がなぜ悪い。我々は生れ落ちた時に正装していたか？ はるか昔、狩猟民族であったころ、Ｔシャツとジーンズで野山をかけまわったと思うのか」

君ならやりかねない、という言葉のかわりに「服の話だったのか？」とわたしは聞いた。

「人間の尊厳の話だ」

わたしは黙ってティーカップの底にうすく溜まった紅茶を飲み干した。白いカップの底には、この会話を切り上げる適当な言い訳も、彼の論点をただしてやる理由も書いてはいない。空になったカップをソーサーに戻し、ソーサーをテーブルに戻し、視線を彼に戻した。彼はじつとわたしを見ている。若干不満そうに唇の端がさがり、まばたきの回数がすくない。大講堂で教授に指された学生のような面持ちだ。緊張と期待と不安がいりまじった顔。彼がわたしに何らかの、しかしポジティブなフィードバックを求めているのは察せられたが、わたしはあえて口をとざすことで彼に酬いた。

「ときに、教授」

彼は若干の非難の色を添えてわたしを仇名で呼んだ。

「やまないな、雨」

うすくらがりの部屋に雷鳴は遠く、怠惰な時間が沈殿してなんともけだるい午後が出来上がった。

「寝ておきたら、あがってるよ」

わたしは目をとじて、ソファに足をなげだした。ずるい、という声がかきこえた。

満足して、意味のない時間の使い方を贅沢なあそびだと割り切つて、素敵な一日をすごしたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0976h/>

雨

2010年10月15日14時25分発行